

## 年間第 27 主日の説教

金 大烈 神父 2011 年 10 月 2 日 (日)

いちょう とくしん  
《以聴得心 ～相手の気持ちになって耳を傾けましょう～》

今日は、福音(マタイ 21:33 - 43)と違う内容について分かち合いたいと思います。今日の福音は、そのまま読めば意味が分かると思いますので、あとでもう一回よく読んでみてください。

私たち人間は、五つの感覚を持っています。目、耳、鼻、舌、そして触れて感じること、の五つの感覚です。

何もしなくても、目に入るものは見え、耳にするものは聞こえます。匂いがすれば感じるし、口に物が入れば味を感じます。そして触れてみれば、温かいか冷たいか、固いか柔らかいか、分かっけてしまいます。この五つの感覚は、どれも大事に使わなければ間違いのもととなります。

この五つの感覚のうち、今日特にお話したいのは、耳のことです。聖書を読みますと、あちこちでイエス様が、「はっきり言うておく」とか「よく聞きなさい」とおっしゃっています。何かを話される前によく使っている言葉です。今日の福音でもそのような言葉がありましたね。最初のところで、「もう一つのたとえを聞きなさい。」とおっしゃっています。普通、「失礼ですが」とか「すみませんが」と言ってから話をすることはありますが、「聞いてください」と言いながら話すことはほとんどありません。しかしイエス様は、いつも何かを話される前に「はっきり言うておく」とおっしゃいます。これは「よく聞きなさい」の意味です。

ですから、今日は、私たちがどのような態度で耳を使っているかを振り返ってみたいと思います。今日の話のテーマは、

### 「以聴得心 (いちょうとくしん)」

です。初めてご覧になる言葉だと思いますが、これは故事成語といって、昔から中国に伝わっている言葉です。『以』の意味は、「何々をすることによって」です。つまり、「聴くことによって心を得る」という意味です。私たちは、いつもよく聴いているでしょうか。私たちは、祈りの中で「イエス様に耳を傾ける恵みをお与えください。」とか「主よ、私の祈りに耳を傾けてください。」と話しています。しかし、『耳を傾ける』の意味を本当によく分かっけて使っているのでしょうか。

たとえば、偉そうに自慢話ばかりしている人が目の前にいたとしましょう。その話を聞いた私たちは、どのような反応を見せるのでしょうか。「何を言っているのか。前と同じことばかり喋っているではないか。」というのが、普通の私たちの反応ではありませんか。これは、聞いたことは聞いたけれど正しく聞かなかったのです。

心理学療法の専門的な言葉にこのようなものがあります。

### 「共感的傾聴」

この言葉の意味は、話している人の立場になって、その話を聞こうとする心です。この世の中で

この姿勢が一番必要なのは、夫婦の間です。夫が西に行きたいと言っているのに、妻は東に行ってしまうことがあります。逆のこともたくさんあるでしょう。私たちはよく話し合っているのに、通じていないのです。その人が喜ぶことを喜ばない、その人が痛んでいることに痛みを感じない。そういうことがよくあるのは、この「共感的傾聴」の姿勢がないからです。この共感的傾聴の態度が身についた人は、自慢話ばかりする人を見れば、このように考えます。「ああ、この人は結構寂しい人だ。愛されたいのだ。注意を集めたいのだ。私の助けを必要としているのだ。」と。その人の中にある痛みや要求、望みが聞こえて来るのです。

しかし私たちも疲れています。もし目の前に何か嫌なものが見えれば、できるだけ避けたい気持ちになります。その結果、その人とのコミュニケーションができなくなってしまうのです。

よく考えてみましょう。夫婦の関係は上手く行っているでしょうか。子どもとの会話は上手くできているでしょうか。「この人は何を言おうとしているのか。」「このような言い方をするのは、何か原因があったのではではないか。」とよく耳を傾けているでしょうか。耳を傾けることは、本当に必要なことです。人間関係の中で一番基本的な態度だと思います。ですから、「共感的傾聴」という言葉を胸に刻みましょう。そして、あまり聞きたくない話が聞こえて来たら、その話がなぜ出てしまったのか、その心を考えてみてください。

相手の立場になって聞こうとする心は、イエス様が私たちに見せてくださった一つの関わりの方法です。最もよく耳を傾けてくださったのがイエス様でした。ですから、神様との関係もよく耳を傾けることが必要です。「神様が私に本当に望んでいることは何なのか。」「なぜ私をこのような試練にあわせてくださるのか。」と、文句ばかり言うのではなく、難しさの中でもそのみ心を推し測ろう、耳を傾けようとする心が何よりも必要ではないかと思ってみました。

「以聴得心」これは素晴らしい言葉です。聞くことによって心を得る。私たちにとって、心を得ること以上に嬉しいことがありますか。もし私が皆様の心を得られれば、私は成功した立派な聖人の司祭になります。そのくらい大事なことです。心を得ようと頑張りましょう。そのためには、必ず耳を傾けようとする心が必要であることも意識しましょう。

ありがとうございました。